

## Y02a 大学・研究機関からの学校教育支援活動のあり方に関する実証的研究

縣 秀彦 (国立天文台・天文情報公開センター)

大学や研究機関が所有する最新情報、知的財産、または研究資源（これらを本研究では「真正資源 (authentic resources)」と呼ぶ）を用いて、いかに有効に児童・生徒の学習活動を支援するかについて考察した。

具体的には、真正資源を用いて、専門家が児童・生徒の学習を支援するにあたり、次の三つの活動を複数実践し、その効果と課題について検討した。一般的な学習支援 - 講演やインターネット中継を活用した支援 - 専門家と教師による探究学習用教材の共同開発 専門家が支援する研究過程の縮図的活動 (Researcher Support to Researcher-Like Activity: 略称 RSRLA) その結果、学習支援は継続して行われることが効果的であること、探究学習用教材の開発は教師と専門家のそれぞれの視座を取り入れることが望ましいこと、「専門家が支援する研究過程の縮図的活動」は、自己学習力の育成 (自己制御学習: self-regulated learning) において効果的であること等が分かった。

以上の考察より、真正資源を用いた学習支援を有効に進めるため、教師と専門家が共同で生徒の学びを支援する「インターネットを用いた学びの共同体 (Collaboration for Learning with the Internet: 略称 CLI)」を提案する。CLIにおいては、専門的な研究に関する共同体への教師の参加と、学校教育に関する共同体への専門家の参加が同時に成立し、教育を実践する新しい共同体が形成される。